

@幸せな贈り物

「青年失信」時代

生存の法則① 単位整形、単位駆け引き



青年失業3百万

このごろ、全世界的に最も深刻な問題は、大学を卒業したあとの、青年失業問題です。それで、このごろの大学生の間では「青年失信」という新造語が流行し

ています。青年失信とは、大学卒業後、失業者になったり、借りた授業料を返すことができなくて信用不良者になるという意味です。そうするうちに、大学では就職スペック specification を積むため、にあらゆる方法が動員される中で「単位整形、単位駆け引き」まで盛んに行われています。忠北道内の大学などによれば、相当数の大学が2004年から4回生などを対象に、再受講が可能な科目まで含めて履修したの科目中5~6単位を自ら放棄して、学士記録から削除できる「単位放棄制」を運用しているのですが、点数が低い科目の単位をあきらめれば、平均の単位を高める効果を上げられるという点で、就職を準備する多くの大学生がこの制度を積極的に活用していると明らかにしました。それとともに、相当数の大学がF単位を受けない科目もまた履修することができるように、再受講規定を緩和しておいて卒業を前にして大学生が就職スペックを高めるために「単位整形」を行っている状態です。一方、ソウルの名門

私立大のA教授は、最近、ある学生から2枚を越える長文の手紙をe-mailを通して受けました。「尊敬する教授様」ではじまったe-mailは、「教授の科目の成績だけ少し上がれば奨学金を受けられる」という内容でした。学生の切実な話に、しばらく悩んだA教授は、しばらくしたあと、受信記録で同僚教授の名前を発見したのでした。成績訂正期間になれば、相当数の教授は、学生のe-mailと電話攻勢に苦しめられています。学生たちは、教授に直接電話をかけたり、e-mailなどを通して成績を上げてくれと要求します。一部の学生たちは、贈り物を持って教授の研究室を訪ねて行ってお願いしたりもします。実際に、今年4月の就職ポータル「サラミン」が大学生507人を対象に調べた結果、半分に近い49.9%が「教授に単位訂正を申請した経験がある」と答えて、この中で5.1%は成績訂正のために、贈り物など「わいろ」を持って教授を訪ねて行ったことがあると答えました。学生の講義の評価点数が再契約に相当な影響を及ぼす時間、講師は学生たちの訂正要求でさらに苦しみます。また教壇に立とうとするなら、学生たちと円満な関係を維持するべきなのですが、ひとまず「点数を低くつける」と認識される場合、講義評価も良くないように出てくるためです。成績訂正騒動は、外国大学ではあまり見ることはありません。カナダのバンクーバーの州立大学に在職して今年からソウルのある大学で招へい教授として勤務してい

る外国人の教授は「授業を聞く学生 9 人中 4 人が成績に対して文句を言って、ある大学院生は A 単位に該当する 90 点をとっているのに、A+に上げてくれと要求してあきれた」と言いました。彼は「韓国の大学生がこの程度で成績過大評価 grade inflation を期待するという点に失望した」と言って「カナダでは一度も体験してみたことがないこと」と伝えました。フランスの大学では、教授が成績と関連することは、まったく“No Negotiation”（交渉不可）だと釘を刺すということです。イ・ソンホ教授は「アメリカの大学でも、成績は教育者の全面的権限」としながら「学生に自分の結果を受け入れるように教えるのも教育の一部門」と説明しました。

今日の大学の現実を見つめれば、経済第一主義に埋没して、殺伐とした競争と物質万能を追求する時代の流れに、象牙の塔は、就職養成所に変質したのではないかと残念に思われます。大学はお金に従っていく人を作る所ではなく、お金がついてくるしかない水準と位置を持って、社会の共同体的価値を実現しようとする知識人を養成する所であるべきです。どのようにすれば、象牙の塔の本来の姿を回復することができるのでしょうか。教育制度や学生の態度を恨む前に、根本的な問題があるのです。人が変わらなくては、どんなに良い環境や教育も、結局は一時的な取り繕う策に過ぎないのです。

生存の法則② 根本、基本、基礎を変えよう

まことの幸せのための教育回復は 3 つのことを変えなければ不可能です。先に根本になる人間のアイデンティティーを見つけるところから始まらなければなりません。そして、人間の生活を持続して支えることができる基本である人生の物語 story を見つけなければなりません。ともに生きることの基礎になる専門性と規律をそろえなければなりません。

人間のアイデンティティーに対して科学と知識がみな説明することができない事実を、聖書は確かに明らかにしてくれています。魚が水の中で生きて、木が根を土地におろして生きていくのが当然の原理であるように、人間は神様とともにいてこそ、幸せ

な霊的な存在として創造されたと語っています。こういう霊的存在である人間が神様を離れてから、すべての問題が始まって、のろいと災いと苦しみ訪れるようになりました。お金がなくて精神問題がくるわけではありません。医者がないから不治の病になるわけではありません。夜通し楽しむのに、心がなんとなく寂しくて、安息がない理由は何でしょうか。そのように子ども教育のためにあらゆることを投資してもがくのに、なぜますます暴力と墮落に染まっていつているのでしょうか。また、成功したのに、なぜ自殺の道を選択しなければならないのでしょうか。教育が足りないではありません。不幸をもたらす張本人がいるためです。聖書はその名前をサタン、あるいは悪魔、悪霊と言います。悪霊、あるいは惑わす霊だと言います。サタンは人間が神様を離れるようにさせ、のろいと災いで苦しめて滅ぼします。

それで、神様はイエス・キリストをこの世に送って、人間が解決できない根本的な問題を解決して救いの道を開いてくださいました。この世に來られたイエス・キリストは、人間の代わりに十字架で死んで、復活されることによって、人間の罪と運命、のろいと災いの問題をすべて解決してくださいました（マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2）。信じる者ごとに永遠にともにいる神様の子どもになる道を開いてくださいました（ヨハネの福音書 14:6、ヨハネの福音書 1:12）。真の王として來られて、サタンの権威を打ちこわいて、その手から解放される道になってくださいました（ヨハネの手紙第一 3:8、ヘブル人への手紙 2:14~15）。それで、聖書はイエス様を「キリスト」と語っています。人間が絶対に解決できない根本問題を完全に解決して、人間のまことのアイデンティティーを回復させて下さる方だということです。だれでもイエス・キリストを信じて受け入れれば、神様の子どもという人間の根本と基本、基礎が回復する身分を得るようになります。これが永遠な幸せのはじまりです。

「あなたは大切な人です」

まことの答え

祈りは霊的な科学です

先日、KBS放送で「生老病死の秘密」で「私のからだの静かな革命、瞑想法」が放映されました。イギリスのフィナンシャルタイム Financial Times が選定した2010最高のCEOスティーブ・ジョブズ Steve Jobs、バスケットボール界の伝説になったマイケル・ジョーダン Michael Jordan、そして、ビートルズのジョン・レノン John Ono Lennon に続き、映画俳優リチャード・ギア Richard Gere まで、彼らの共通点は着実に瞑想をするという事実です。アメリカの瞑想人口は1,500万人を越えて、すでに病院では瞑想（黙想）と呼吸、気功を治療の一分野と認定しています。数千件の論文も出ているほどです。このように、すべての宗教が瞑想（黙想）と呼吸を兼ねた祈りをしています。祈禱文を持っていたり、あるときは、動物・石・木・手で作った偶像の神をまつたほころにお辞儀をして祈るのに、答えられます。いったいその理由は何でしょうか。聖書には、神様ではない他の対象に祈って答えられるのは、悪霊と交わることで、悪霊がもたらす答えだと明らかにしています（コリント人への手紙 10:20、マタイの福音書 24:11）。未信者は問題だけ解決されれば、それだけでよいと考えて祈っています。しかし、すぐには答えであるようでも、結局は、失敗するようになります。悪霊の目的は、結局、人間をほろぼすことだからです。

それなら神様の答えはどのように受けられるのでしょうか。まず、神様の子どもにならなければなりません。肉の親も子どもに良いことを与えると知っているように、神様は神様の子どもに良いことで答

えてくださいます。イエス・キリストが神様に会う道であり、罪とのろい、生年月日による運命（四柱推命）から、地獄とサタンの権威から抜け出す道であることを信じて、私の救い主として受け入れれば、神様の子どもになります。そして、イエス・キリストの御名で祈るとき、答えられる特権をくださいました。祈るとき、どんなことが行われるのでしょうか。私とともにおられる聖霊が働かれます。主の御使いが送られて答えられ、暗やみの権威が打ち砕かれて霊と肉のいやしの働きが起きようになります。祈りは必ず答えられる科学です。あるものは祈ったらずに、祈った通りに答えられます。また、あるものは答えられないこともあります。神様は悪霊ではないので、私たちに必要ないことはくありません。どんな親が刃物をくれと言う幼い子どもに刃物を与えるでしょうか。しかし、私たちに向かった神様の計画は、さらに完べきなので、より良いこと、より大きいことで必ず答えてくださいます。神様の子どもにとって、すべての問題は答えを受けるチャンスで、すべての心配は答えを受ける祈りの課題であるだけです（ペリピン人への手紙 4:6~7）戦わないで勝てる祈りの力、すべてを変えることができるのです。

あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。

そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。

（ヨハネの福音書 16:24）

*神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

*神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



イラスト: ジョーン・ジョーン

まことの分け前のために

歳月は、だれにでも同じ重さを与える。狭い路地を飛びまわり続けている子どもたちや、若者たちの才気がみなぎる早足、また老人がツエに頼ってふらつきながら歩く歩みの優劣を単純に比較することは難しいが、時間はだれにでも公平な重さを与えるということは事実だ。

私たちに〈大地〉The Good Earth という小説でよく知られているパール・バック Pearl Sydenstricker Buck 女史は、中国宣教師だった父親の影響で、中国で多くの時間を送り、小さい子の信仰の視線で当時の農夫などを見た経験が、彼女を美しい小説家に導き、世界の人の共感を呼んだ。パール・バック女史が、一度は韓国を訪問して、田舎の道に行くようになったが、彼女の視線は自分の関心事である農夫に向くしかなかった。あるとき、夏の熱い日差しが沈む夕方ごろ、ある農夫が畑仕事を終えて帰宅するところだったが、疲れた姿であることが歴然としていて、汗にまみれた服の疲れた背中に背負子(しょいこ)を背負って、その上にまた荷物をいっぱいおせて腰を曲げて歩いていた。ところが、そのそばには牡牛の牛がひく荷車が空いたままであった。普通の人々は、牡牛の牛がひく荷車にすべてをのせて、自分の疲れてだるいからだもそこに乗せて行くだろうが、この農夫はかえって牡牛の荷物を自分が代わりに負って、とぼとぼ歩いて行くのだった。この光景を不思議に思ったパール・バック女史が、なぜそのように苦勞をするのかと尋ねたら、その農夫が言うことが、いつも一日中、自分の牡牛が私よりさらに苦勞したので、それで私が負えることを分かちあって行くということだった。単にとるにたらない動物でも、苦勞を分かち合う主人に会ったので、その牛は死ぬ時まで幸せだったろうと思われる。

人生の道は、生きるのが大変だと失望したり、あきらめる人々が多い。しかし、まわりを見まわしてみれば、大変な人生の重さを他の人と分かちあって、苦痛を豊かさに変えてしまう美しい美談がたくさんある。それとは違って、人生にはだれかが代わりに担って行くことができない霊的な荷物がある。それは、自分のミスや誤りによるものではなく、自分も知らない間に先祖が犯した過ちが伝えられたという霊的問題だ。私たちは私たちが選択したことではないのに、それぞれ佐藤氏、山田氏、鈴木氏というような固有の姓を持っている。同じように、私たちに、私達が知ることかできないが、各自に伝えられてくる遺産が存在する。すべての遺産は、簡単に理解できるが、霊的な遺産、すなわち原罪については理解することもできず、解決することもできない困難がある。しかし、聖書はこういう問題の事実を語っていて、避けたくても避けられない結果として、原罪のために人間には必ず死がくるのだ。人間の苦しみをご存じで、神様は人間の罪を分かちあうことにされた。解決できる道がなかったので、ご自身の死によって人間の死を防いで、ご自身の苦しみで人間に自由を与える方式であるが、それがまさに福音 Good News だ。その御子イエスの血が、私たちをすべての罪から自由にするというこの事実を信じる人が、真の分け前の片隅にいる者であり、祝福を味わう者だ。まことに、その事実が福音で、その証拠が救いであるから、もう恐れを脱ぎ捨てて、荷物をおろして休みを得るように願う。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ